

# 第1回野洲駅南口周辺整備構想検討委員会結果報告について

## 1. 開催日時等

平成24年7月27日(金) 午前10時00分～12時

於：市役所本館3階第1委員会室

## 2. 委員等

### <出席委員>

松岡 拓公雄 委員長 (滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科教授)

中田 幸子 副委員長 (野洲市ボランティア観光ガイド協会)

及川 清昭 委員 (立命館大学理工学部建築都市デザイン学科教授)

太田 正己 委員 (おうみ富士農業協同組合) 鍛冶 平太郎 委員 (野洲市自治連合会)

立入 誠悟 委員 (野洲青年会議所) 間宮 美佐緒 委員 (野洲市PTA連絡協議会)

森野 百代 委員 (野洲市国際協会) 山本 真嗣 委員 (野洲工業会)

小川 文章 委員 (国土交通省 近畿地方整備局 建政部 都市調整官)

代理：吉澤 勇一郎 都市整備課長

谷村 定義 委員 (滋賀県 土木交通部 交通政策課 課長)

橋 俊明 委員 (野洲市 都市建設部 部長)

兒玉 志織 委員 (公募) 西村 昇 委員 (公募) 前田 基良 委員 (公募)

平野 剛 委員 (JR西日本 近畿統括本部 京都支社 地域共生室長)

### <欠席委員>

鈴木 あつ子 委員 (野洲市商工会)

樋口 俊助 委員 (滋賀県バス協会 専務理事)

### <傍聴者>

10名

### <報道機関>

2社

## 3. 議事等

### 1) 委員紹介及び委員長・副委員長の選任

- ・委員長に松岡委員、副委員長に中田委員を選任

### 2) 現状把握、コンセプトの確認、市民活動拠点とは

#### ① 質疑

A  
委員

- ・留意点で市立病院立地の可能性に関して、病院整備の可否を12月頃に決定予定とあるが、当委員会のスケジュールとの整合性は。また、市内部での病院検討とのすり合わせは。

→新病院整備の可能性については、立地場所、財源、安定した病院経営の確保が必要で、立地についてはこの南口周辺市有地での実現しかないが、この南口構想検討委員会で、新病院整備の可否を検討していただく必要はない。市民の方からの意見として病院機能もあるが、病院にこだわらずに駅前がどうあるべきかということを議論いただきたい。

委員  
長

- ・民間等のプラン募集の予定があるが、募集の際の中身は設定するのか、全く自由な提案を求めるのか。

→市民が求めていく駅前はどうなのかなのかを一定明確にした上で、募集を考えている。

#### ② 意見 (市民活動拠点としてふさわしいものは、使い勝手のよい駅前とは)

B  
委員

- ・駅前は市の顔となることから個性が必要。市民の方の意見を確認すると複合機能が想定されるが、近隣で見られるような施設では個性が出ないと思う。

- ・病院を考えると医療都市、健康を中心とした考え方で、単に病を治すための施設だけでなく、商業施設併設や健康増進に繋がる機能や、憩いのための場として位置づけることができるのであれば駅前の核としては成り立つのでは。

C  
委員

- ・全国で人口減少が言われている中で、滋賀県の湖南地域は伸びているが、野洲市の伸び率が低いことが疑問。

- ・野洲駅は市の玄関口であり、どのように人が集まりにぎわいを生み出せるのか、さらに波及して市の経済がどう回っていくのかという仕組みづくりを考えていきたい。

- D 委員**
  - ・ 持続的にイベントや活動が可能な空間が必要。駅に近いことから駅利用者の集客も見込めるのでは。屋内・外が一体的に感じられる憩える広場。多目的に利用できる広場がよいのでは。
- E 委員**
  - ・ 単に店舗があれば良いということではないが、にぎわいのためには商業機能が必要。
  - ・ 駅ロータリーにつながる道路機能が乏しく利便性が向上しないことから、駅ロータリーにつながる道路も必要。また、旧中山道や祇王井川は歴史を感じられるような整備が必要。
- F 委員**
  - ・ 市では現在南口ロータリー整備を進めているが、道路整備の観点から、将来的には交番前から文化ホールへ抜ける遊歩道を車道へ変更する可能性を視野に入れている。
- G 委員**
  - ・ 人とのつながりを重視する中で、駅前に市民が何を求めるのかについては、目先のことばかりではなく、30年、50年といった将来の駅前の利用を考えるべき。
- H 委員**
  - ・ 駅北口が幹線道路に近いことからすでに商業の色合いが強い現状となっていることや市街化区域編入箇所の動向を踏まえ、南北で役割を分けていくことも必要では。
- 副委員長**
  - ・ 市内の観光や道案内等の総合的な案内所が必要で、そこでは市内外、世代を超えて交流可能な空間が必要。
  - ・ 高齢者人口が増えていく中で、高齢者が憩える交流スペースが必要。少子化が進んでいる中では、コンパクトシティ化を目指すべきだと考える。
- I 委員**
  - ・ 駅前に行けば様々なサービスが享受できる空間づくりをする中で、天候に関わらず利用可能な広場が必要。
  - ・ 図書館分室機能の要望を多く聞いており、今後も推薦団体での意見集約や反映をしていきたい。
- A 委員**
  - ・ 市内には世界でも有数の企業があるが市としての企業PRが少ないことから、ものづくりが盛んで、企業のまちであると市民が知るためにも、その技術に市民が触れ合えるスペースが必要。
  - ・ 企業も広く利用できるミーティングルームやホテルといったものが少ない。
- J 委員**
  - ・ 駅改修を考えるとときには、採算性も必要となってくるが、今回の南口整備構想の検討はまちづくりの一環として捉えている。
  - ・ まちづくりの方向性として、環境対策や高齢化といったことから、過度に自動車に頼らないことが必要で、まちづくりの進め方により将来のまちのあり方が大きく変わる。
- K 委員**
  - ・ 駅前だけへの投資という意見もある中で、地域による条件が異なることを踏まえ、より市民にとって利便性が向上する取り組みが必要。
- L 委員**
  - ・ 近隣の駅前はどこも似ている印象があり、野洲市のまちのイメージとして総合計画に庭園都市として位置付けがあるように、野洲市の特徴が印象付けられるような駅前にすべき。
  - ・ 駅前は駅を通じて他のまちとつながることが出来ることから、広い視点が必要。
  - ・ 社会状況を見極めて本当に必要なものを整備しなければならないが、何も建てないという選択肢もある。

### <傍聴者から>

- ・ いよいよ始まった駅前整備構想の検討を担っていただく皆さんに期待し応援している。
- ・ 野洲駅の改修を含めた視点が必要。
- ・ 拠点としての都市空間の形成と土地利用の機能向上が必要。

検討課題である、『市民活動拠点としてふさわしいものは、使い勝手の良い駅前とは』について、第1回検討委員会であることから自由な発想のもと各委員からご意見を伺った。今後、「成長する駅前」というキーワードのもと、駅前機能の選別に向けて検討を進める。

### 2) 今後のスケジュール等

- ・ 平成24年度末には整備構想をとりまとめる方向で検討を進める予定。次回の予定は次のとおり。  
第2回検討委員会 9月10日(月) コミュニティセンターきたの 午後2時～
- ※その後の予定については委員長と協議。